

自分たちの町は

自分たちで守る

67年にわたって葉山町を守り続けている消防団。しかし、「何の活動をしているのかわからない」、「消防署とは何が違うの?」という認識不足があることは事実です。

今月号の特集では、消防団の活動や団員の思いを紹介し、皆さんに「消防団への関心」、「活動への理解・協力」を考えていただきます。いざという災害時に助け合えるような「災害に強い町 葉山」を目指してみませんか?

郷土愛護の精神

消防団とは、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、災害発生時に非常勤特別職の地方公務員として災害に対応する組織です。専門職である消防職員と違い、地域の有志の人々によって組織され、普段は他の仕事をしながら、火事や災害のあった時に要請を受け、出勤しています。

67年もの歴史

葉山町消防団は昭和22年に設置され、本団と六つの分団で現在187人が活動しています。日ごろの仕事では、会社員が最も多く、次に家族従事者、自営業、学生などとなり、平均年齢は39歳です。

3年前の東日本大震災をはじめ、大雨や台風災害、積雪時などでも、住民の避難誘導や救助活動に献身的に従事し、その活動は高く評価されるとともに、地域の必要不可欠な存在となっています。

まずは、知ることから

お正月恒例！



お正月の恒例行事となる出初式では、女性防火防災クラブと合同で放水訓練を披露し、火災予防を呼びかけます。

御用邸で訓練



昭和46年の葉山御用邸御殿の焼失を教訓とし、今年2月に宮内庁や皇宮警察、消防本部と合同で訓練を行いました。

こんな
訓練・活動を
しています

消防学校で…



消防学校で行われた「消防団員指導者講習」に中級幹部候補団員を5人派遣し、はしごの取扱いなどを学びました。

チェーンソーも



土石流災害など木々が散乱している場合、チェーンソーを活用した救助は不可欠なため、取扱い訓練を実施しています。

分団での講習



避難や救出の際に必要なロープの結び方などを学ぶロープワーク講習を実施しました。

エンジンカッター



家屋に閉じ込められている人を救出する訓練で、削岩機・エンジンカッター・チェーンソーを使って救助活動を実施し、要救助者2名を救護所まで無事に搬送することができました。(第1分団)

テント設営



消防団の活動拠点を設定するため、消防庁より支給された大型のテントや照明装置を設置しました。(第6分団)

震災時対応訓練



3月9日(日)、上山口の正吟沢調整池で「消防団震災時対応訓練」を実施しました。消防団本団が指揮をとり、二つの部に分かれ、第3・4・5分団が運営部として会場管理などの訓練を行い、第1・2・6分団が訓練部として災害時対応技術向上のための訓練を行いました。消防団が主軸となって企画・運営を行ったのは今回が初めてです。当日は消防団OBや家族が観覧にかけつけ、日ごろの成果を見せることができました。

放水訓練



地震で火災が起きたと想定した家屋に、消火活動をする訓練をし、放水を行いました。(第2分団)

消防団の活動は町HP「消防団だより」からも
見るができます。毎月更新しているよ！



私がこの町の消防団である理由

町を守ることは、大切な家族を守ること

第3分団 分団長 新倉 健誘さん

消防団に入ったのは約20年前、商工会の青年部で活動していた時に先輩から声をかけられました。地元で仕事をする限り、地域に貢献することは当たり前だと考えていたので、入団することに抵抗はありませんでした。

消防団の活動は月に少なくとも3回はあり、練習や訓練のための時間を調整することが難しい時もあります。そんな私を支えてくれているのは、他でもない家族の存在。分団長になってからは、その「家族の協力・承諾を必ず得て参加するよう」団員に呼びかけるようになりました。消防団の活動が負担にならずに、続けてほしいですからね。

また、同時に消防団として町を守るといことは、町に住む大切な家族、友人などを守っていることだと思おうようになりました。自分たちの手で人を守っている意識、

責任感、そして達成感が消防団の魅力だと思います。職業や年齢はみんな様々だけど、同じ方向を向いて一生懸命に活動している。危険を伴うボランティアですが、その分もつと絆が強まるような気がしています。



誰かがやらなきゃいけないなら、僕がやろう

第2分団 入団1年目 石川 昌樹さん

父も消防団だったため、周りにも消防団の知り合いが多く、分団長に誘われて入団しました。父の活動を見ていたこともあって、はじめは「土日休まずに活動しているのは大変そう」という印象でした。しかし、東日本大震災が起き、また近所で火事が起きた時に自分には何もできなかったことで、「消防団は誰かがやらなきゃいけないこと、それなら僕がやってみよう」と思い、入団を決意しました。

まだ入団したばかりで、すべての訓練・活動を経験したわけではありませんが、消火栓の点検をしていて近所の人に「おつかれさま」と声をかけてもらったり、地域の人と前よりも親しくなれたり嬉しかったりです。

家族も初めは心配していましたが、今では全面的に協力してくれていて、訓練や活動に行く時には、いつも笑顔で送り出してくれます。これからは、色々な訓練を経験し、いざという時に率先して活動できる、父のような消防団員を目指します。



そして、共感する

改めて、考える



(写真左から) 沼田慎一団長、山梨崇仁町長、中島章一副団長、荒本恵司副団長

消防団本団と 町長との対談

— これからの
葉山町消防団 —

日ごろの活動

町長 「67年もの間、町を守り続けてくれている葉山町消防団ですが、日ごろの活動のようすはどのようなものでしょうか。」

沼田 「消防団は地区別に六つに分かれ、分団によって地域性が違う（海が近い・山が近いといった特徴がある）ため訓練項目も違いますが、最低でも月2回程度は点検・巡回などに集まっています。年間の予定としては1月の出初式、秋の放水大会や防火パレードが大きな行事です。」

町長 「今年は全国消防操法大会もありますよね。」

沼田 「2年に1度の消防団の甲子園と言われているものです。OBを含め全員で応援していきたい。」

町長 「仕事をしながらで、夜間・休日訓練など無理は言えませんが、その結果で私たちが勇気づけられることがありますからね。」

中島 「はい、頑張って県大会で優勝し、全国に連れて行ってもらいたいです。」

施設の老朽化が課題

町長 「今消防団が抱えている問題や課題はありますか。」

沼田 「一番は長柄の第6分団の詰所のこと。一番古く、分団員の多さに比べて狭いため、台風の警備などでは仮眠もとれない状態です。その建替えを早急にお願したい。」

荒本 「若い団員が積極的に集まってくるのですが、全員が入れない、消防車の中で待機したりパイプ椅子で仮眠をとったりする団員もいるくらいです。」

町長 「私自身も何度か訪れて、なんとかしないといけないことは理解しています。建て替える方向で場所の検討や設計等を進めていきましょう。」

女性も活躍できる

町長「団員数はいかがですか、定員には11人足りていないですよね。」

沼田「今後は女性の方にも入団していただきたいです。火事の時にホースをかつげという話ではないが、広報に関することや女性ならではの活躍の場があると思う。他の地域を見ても女性の消防団員が活躍していますし、一人暮らしの高齢者などについて、女性団員を中心に町内会と協力して見守る活動をしていきたいと考えています。」

町長「女性の社会進出は当たり前ですからね。他の地域に比べて違う点はありますか。」

荒本「各分団にポンプ車があるなど、

設備が恵まれている点は感じます。」

沼田「今回の特集を通じて、興味を持った人には是非入団してほしい。なおかつ役員も長く続けてほしいというのが本音です。」

地域への愛情

町長「ずばり消防団の魅力は？」

沼田「自分たちの手で町を守っているというところ。その意識がやりがいにつながります。消火活動を終えた時、またお祭りの警備などで町民の方から感謝されることも消防団で良かったと思える瞬間ですね。」

中島「団員は年齢も職種も様々、しかし同じ釜の飯を食って、いざという時には力を合わせる。そんな仲間との信

頼関係も魅力の一つです。」

荒本「私は消防団に入ること、改めて地域への愛情を認識できるようになりました。大切な町だからこそ、自分たちで守り続けたい。」

災害に強い町 葉山へ

町長「消防長から《消防本部と消防団の連携を強くして、消防力の強化に努めたい》との話もありますが、いかがですか。」

中島「今でも十分みんな一生懸命やってくれています。ボランティアだからこれでいい、なんていう線引きはしたくないですね。素人訓練ではない、消防本部による訓練など、連携して訓練をやっていききたい。そのように、団

のレベルが上がれば自然と入団を希望する人も増えるのではないだろうかと思えます。」

沼田「また、各地域にも町内会・自治会をはじめとした自主防災組織があり、防災訓練などに力を入れていきますよ。そのように皆さんにも『災害があった時に自分たちでなんとかしよう』という気持ちをもっと強く持つて、災害に強い町・葉山をみんなで作り上げていきたい。」

町長「自主防災組織も色々な訓練など積極的に取り組んでいますからね。町と地域と消防団との連携を強化していきましょう。また、今回の特集記事だけでなく、町HPの消防団だよりなど、活動についてのPRも積極的にやっていきたいと思えます。」



葉山町消防本部 高梨 勝 消防長

今回、消防団の活動の一部を紹介することができましたが、他にもまだ各地域で地道な活動を行っています。今年に入り2件あった火災も、消防団の活躍により、延焼を最小限にすることができました。1件は大雪の日で、朝から消火栓などの雪かきをした後に起きた火災でした。このように雪かきなど地道な活動が万が一の災害に備えた重要な事例になりました。

また、今回紹介した訓練後も、「もっと訓練を重ねたい」、「ちがう訓練もしたい」など熱い要望をいただきました。大変心強い存在であり、良きパートナーとして連携を強め、葉山町の消防力向上を図ってまいります。

最後に消防団の活力の源は、地域の皆様からの「ごくろうさま」、「おつかれさま」です。この一声をかけていただければ幸いです。

※消防団員の募集※

町在住、または在勤者で18歳以上の方を対象に、随時募集しています。詳細は町HPか消防総務課まで。

問合せ 庶務係 ☎876-0146